

令和元年6月26日現在

機関番号：24402

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2015～2018

課題番号：15H03241

研究課題名（和文）近世～近代日本における遊女・娼妓と遊廓社会の総合的研究

研究課題名（英文）Prostitutes and Brothel Quarter Social Formations in the Transition from Early Modern to Modern Japan: An Attempt at Historical Synthesis

研究代表者

佐賀 朝 (SAGA, Ashita)

大阪市立大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：40319778

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 10,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、日本近世～近代における国内各地や植民地の遊廓の調査を進め、遊廓の開発や社会＝空間構造を分析するとともに、一次史料を用いて、遊女屋・貸座敷の経営内部における女性たちへの抑圧と搾取の構造の解明も進めた。その結果、近世後期以降の遊廓の大衆化と全国的普及の過程で女性たちに対する搾取が強化される一方、明治維新に伴う公娼制度の改革を経て、女性たちが多様な手段を用いて搾取や暴力に直接・間接に抵抗し、それが遊廓社会の変容を促していくことも明らかになってきた。継続的な現地調査や研究会と研究者のネットワーク化、「遊廓・遊所研究データベース」の充実により、新しい遊廓研究が現れてきた点も重要な成果である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究が解明した近世～近代日本における遊廓社会の構造的実態は、都市開発史における遊廓の社会的位置や、都市社会の周縁に置かれた民衆の実態、性売買をめぐる男女間の非対称な関係、それに基礎を置く社会的・政治的権力の実態とその問題性などを批判的に考察する上で重要な学術的意義を持つ。また、現在も続く性売買をめぐる搾取や人身売買などの社会的病理や人権問題を解決に導く上で、また現在も未解決の歴史的な問題である日本軍「慰安婦」問題を、被害女性への複合的な人権侵害として捉え、その真の意味での解決を導く上でも、きわめて重要な意義を持つ。

研究成果の概要（英文）：This project has advanced a general survey of brothel quarters in Japan and its colonies during the transition to modernity. The analysis has focused on the development of brothel quarters and their subsequent socio-spatial evolution. Primary sources are used to reveal the structures of oppression of women by brothel keepers. This project has illustrated fundamental dynamics of change in the history of prostitution in Japan: popularization from the late Edo period deepened the exploitation of prostitutes, but with the post-Restoration reforms to Japan's system of legal prostitution, they developed a variety of means to resist exploitation, which helped drive the transformation of brothel quarters as social formations.

Continuous historical surveys, academic conferences, scholarly network-building, and the compilation of an extensive database of sources have encouraged new research in brothel quarters history, one of the most important accomplishments of the project.

研究分野：日本史

キーワード：日本史 ジェンダー

様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

(1) 「遊廓社会」の比較類型史

本課題は、平成 23～26 年度交付課題「近世～近代日本における「遊廓社会」の比較類型史的研究」（以下、前課題と略す）を引き継いだものである。前課題は、近世「遊廓社会」史研究、幕末～明治初年の遊廓と近代公娼制度成立史の研究、20 世紀における国際的人身売買問題や植民地公娼制の研究、を前提とし、①列島各地における遊廓・遊所類型と関連史料・関連研究の掘り起こしとデータベース化、②それを前提とした比較史の視点による遊廓の共同研究を具体的課題とし成果を上げてきた。2013～14 年に刊行された佐賀朝・吉田伸之編『シリーズ遊廓社会』全 2 冊（吉川弘文館）は、その最大の成果である。ここでは、近世の三都（江戸・京・大坂）と長崎、地方城下町の遊廓や茶屋町、藩領の旅籠屋、港津の遊所のほか、近代の軍都、温泉町、都市近郊地の遊廓や芸者町など、多様な類型の掘り起こしと比較を行った。

(2) 遊女・娼妓とその実態研究

前課題の研究協力者であった横山百合子は、2011 年以降、上記の「遊廓社会」史を、ジェンダーの視点にもとづく近世「売春社会」史研究と接合し、遊廓社会の全構造の底辺で奴隷的に搾取された遊女とそのたかひを研究対象の中心に据えて分析し、芸娼・妓解放令前後の遊女たちの行動とそれが新吉原を頂点とする遊廓社会に与えた衝撃の大きさを明らかにした（横山 2012）。また、遊女屋営業を支えた金融ネットワークの実態を解明するという、これまで全く未解明だった局面にアプローチし、寺社名目金の形で新吉原遊廓の遊女屋に貸し出された借金（その出所は信州の豪農）の担保が遊女自身の身体であった事実を明らかにした（横山 2014）。この指摘は、近世社会における遊女の身分的ありようをめぐる議論（遊女を奴隷的存在と見るか、奉公人の隷属的類型＝町人・百姓の子女が一時的に取る形態と見るか）にも大きな提起を与えるものであった。これにより遊廓社会全体の構造的分析をふまつつも、遊女・娼妓の存在形態とその生活・「労働」の実態、彼女たちに対する搾取の具体的ありようを、あらためて主題として掲げることの重要性が明白となった。本課題が、新たに「遊女・娼妓と」という主題文言を加えたのは、以上の経緯による。

(3) 多様な論点の広がり

(2)で触れた横山の研究を含め、「遊廓社会」史研究では、この間、比較類型史の枠におさまらない多様な論点が提出されつつある。例えば、上記のシリーズ収録論文で神田由築は、芝居町における男娼の問題を取り上げたが、これは遊廓と芝居地を関連させ、比較もしながら対象化する課題を提起している。このほか、遊廓・芝居・相撲などに共通して見出せる「茶屋」の近世社会における位置、芸者・芸妓や芸者町と遊廓の相互関係など、遊廓の周辺に展開・派生した諸存在や社会集団を視野に入れ、その広がりを課題にすることが課題として提起されている。また、(2)で触れた遊廓経営を支える金融ネットワークの問題は、この間の研究が比較的手薄であった女衞（周旋人）を中核とした遊女・娼妓の「供給」構造ともあわせて分析が課題となる。さらに、近代史分野でも、芸娼妓解放令の布告前後の各府県における遊廓統制の実態や、その相互比較もこの間、大きく進展した。前課題による府県別公文書の調査・収集とデータ化もふまえて、比較的史料の豊富な主要府県（三都など）における動向は、微細な過程も含めて解明され、府県ごとに政策判断の大きな幅が存在する一方で、全体として遊女・芸者の解放が、かなり徹底して行われた実態も浮上している（佐賀「シリーズ 2 序文」）。

(4) 本研究の位置

以上から、本課題はこの間の「遊廓社会」史研究の大きな進展をふまえて、ジェンダーの視点をふまえた遊女存在への再注目、遊廓とその周辺に広がる多様な問題群の対象化といった研究を、次のステージに導く重要課題への接近を目的として構想されたものである。

2. 研究の目的

本研究は、近世～近代日本の遊廓について、列島諸地域の多様な事例の発掘と具体的分析をベースに、遊女・娼妓の存在形態とその搾取の構造、それらを基礎に成立している遊廓をめぐる多様な社会的諸関係（遊廓社会）を多面的に分析し、その歴史的特質を解明しようとした。具体的には、①遊女（娼妓）・芸者（芸妓）の生活と「労働」、彼女たちに性売買を強い、搾取する構造の解明（遊女・娼妓の存在形態論）、②遊女屋（貸座敷業者）とその仲間（集団）の存在形態とそれをめぐる諸関係の具体的分析（社会集団論）、③遊廓が形成される社会＝空間の構造分析と、遊廓を包含する都市的な場の特質の分析（社会＝空間構造論）、④列島諸地域の多様な遊廓・遊所事例の発掘と比較類型化（比較類型論）、⑤近世～近代の長期にわたる「遊廓社会」の変容過程とその特質の解明（通時代的分析）、⑥19～20 世紀における性売買の移植など、国際的関係の分析と、日本の公娼制度をめぐる国際的人身売買問題の分析（世界史的視点）の 6 つを課題とした。

3. 研究の方法

本課題では、A 前課題を計画・方法面で継承した比較類型史のための遊廓事例・史料の発掘と共有、さらには個別事例研究の活動（比較類型史研究活動）と、B 前課題を内容面で継承し、それを発展させた 6 つの個別テーマ研究の活動（テーマ別研究活動）の二つを研究計画の柱とした。A では、前課題を継承したデータベース構築とそのための史料・研究情報の調査・収集、さらには現地調査・研究会を通じた既存研究のネットワーク化を進めながら、個別の遊廓事例の研究蓄積をはかる。B では、A をベースとしながら、テーマ別小チームの企画にもとづくテーマ別研究会を開催し、その成果の共有と蓄積をもとに、その

総合化する総括シンポを企画し、最終課題である総括論文集の出版企画へも接続させた。データベース構築を中核とした A 課題については、前課題における研究組織体制を見直し、研究代表者が直接、推進統括にあたることとし、B 課題については、研究代表者と各テーマ別小チームの共同によって研究会を企画し、バランスの取れた研究蓄積をはかることとした。以上の基本的な研究活動運営の指針を前提とした。

(1) 遊廓・遊所データベース暫定版の補足

前課題で作成した、全国主要 10 都道府県の詳細データコンテンツ（遊廓・遊所の基本情報（沿革）と史料所在情報、研究論文・文献情報、主要史料データ集から構成され、収集史料のデジタル・データを付属させたもの）を、「暫定版データベース」として公開した。本課題では A 課題の中核として、すでに構築済みの主要府県の詳細データを継承し、詳細データ未作成府県の簡易データを、順次、追加・補足した。

(2) 現地調査・研究会と日常的な史料調査

特徴的な遊廓事例の存在が確認できる都市で近世・近代にわたる史料の調査・収集と現地の研究者との合同研究会を実施し、史料情報・研究情報の共有と研究ネットワークの組織化をはかるため、前課題から引き続き現地調査・研究会を活動の中心に据えた。年度中 1～2 度の現地調査・研究会を開催し、個別テーマ研究につながる史料を収集できた（山口・金沢・新潟・山形・栃木（烏山）・横浜・東北・香川）。特に、金沢では現地研究者との研究交流、栃木（烏山）・東北などでは新史料の収集が可能となり、一次史料による遊女・娼妓の存在形態の解明につながる成果が得られた。

(3) 総括研究会等の実施・個別研究の進展

本課題最終年度には、4 年間の個別調査・研究会をふまえた総括シンポジウム「近世～近代遊廓社会史研究の広がり」と課題」を東京で開催した。遊女の存在形態・社会集団・空間構造の解明、植民地公娼制度による国際的関係を世界史的視点により分析するといった、当該分野の研究の最先端の議論を展開することができた。また、個別研究としては、比較類型論・世界史的視点による分析として、居留地と遊廓社会の関係を横浜・大阪・東京で比較・位置づけた研究が大きく進展した。

4. 研究成果

(1) 史料調査

[2015 年度] 9 月 15～17 日山口県文書館、下関市立豊北歴史民俗資料館、下関市立長府博物館、FW と上関室津吉崎家文書・特牛中川家文書の収集／**2016 年 3 月 12～15 日**石川県立図書館、金沢市立玉川図書館、串茶屋民俗資料館、FW と金石地区関係史料・小松市串茶屋町関係史料調査

[2016 年度] 9 月 8～11 日新潟市歴史博物館、相川郷土博物館、佐渡博物館、新潟県立文書館、FW と新潟県内遊廓関係資料・布達類の収集

[2017 年度] 9 月 10～13 日山形県立図書館、鶴岡市立図書館、雪の里情報館、FW と山形県内遊廓関係史料・布達類の収集、一次史料の所在確認調査／10 月 21～22 日横浜開港資料館、五味亀太郎所収遊廓関係文書・横浜遊廓関係文書の調査・収集

[2018 年度] 8 月 13～14 日東北歴史博物館、遊廓関係史料（若柳町・阿部家）の概要調査／8 月 15～17 日栃木県那須烏山市教育委員会文化振興課、栃木県立文書館、FW と那須烏山市の遊廓関係史料・布達類の収集／9 月 11～12 日香川県立文書館、FW と遊廓関係史料の調査

(2) 遊廓社会研究会

[2015 年度] 10 月 17 日大阪市立港区民センター、第 34 回遊廓社会研究会（大阪歴史科学協議会と共催）「近代公娼制度と遊廓社会—人見佐知子『近代公娼制度の社会史的研究』をめぐって—」、書評：吉元加奈美・早川紀代 リプライ：人見佐知子／**2016 年 3 月 14 日**金沢星稷大学、第 35 回遊廓社会研究会（現地研究会 人見佐知子『近代公娼制度の社会史的研究』書評）（本康宏史「補論「金沢の茶屋町」より」、塩川隆文「第 5 章「北陸・港町遊所の形成と展開—加賀藩金石町相生町新地を事例に」より」）

[2016 年度] 8 月 4 日大阪市立大学、遊廓社会小研究会「遊廓・遊所研究データベースのコンテンツについて」／11 月 13 日大阪市立旭区民センター、第 36 回遊廓社会研究会（大阪歴史科学協議会と共催）「近代公娼制と軍「慰安所」のあいだ」（佐賀朝「近代公娼制と軍「慰安所」のあいだ—性奴隷制概念と歴史の実態から」、小野沢あかね「近代公娼制度と軍「慰安所」の連続と飛躍—芸娼妓・酌婦・「慰安婦」側の視点から」）

[2017 年度] 6 月 8 日大阪市立大学、第 37 回遊廓社会研究会（佐賀朝『遊廓社会史入門（仮）』の企画）

[2018 年度] 8 月 15 日栃木県那須烏山市、第 38 回遊廓社会研究会（小野沢あかね「栃木県烏山旭遊廓の一次史料について」、佐賀朝「烏山旭遊廓の概要」）／11 月 25 日立教大学、第 39 回遊廓社会研究会、「栃木県烏山旭遊廓一次史料研究会」（佐賀朝「近代における栃木県の遊廓と烏山旭遊廓の概要」、小野沢あかね「烏山旭遊廓の福二樓の一次史料から見えるもの」）／**2019 年 2 月 25 日**大阪市立大学文化交流センター 遊廓社会小研究会（人見佐知子「芸娼妓紹介簿」について）

(3) 総括シンポジウム

2019 年 1 月 12 日立教大学、総括シンポジウム（第 40 回遊廓社会研究会）「近世～近代遊廓社会史研究の広がり」と課題」（横山百合子「新吉原遊廓の仮宅と深川の関係について—天保 9 年局見世一件を素材に—」、小野沢あかね「近代における地方遊廓の実態—栃木県烏山遊廓の一次史料から—」、佐賀朝「栃木県の遊廓と烏山遊廓」、金富子「近代日本の軍隊と植民地遊廓」）

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 (計 33 件)

- ①金富子「翻訳・解題 チョン・ミレ／イ・ハヨン「韓国における性売買の政治化と反性売買女性人権運動」『Quadrante』、査読有、2019、305-320
- ②佐賀朝「居留地と遊廓社会—横浜・大阪・東京を素材に—」『都市史研究』5号、査読有、2018年、85-94
- ③人見佐知子「書評 林葉子著『性を管理する帝国—公娼制度下の「衛生」問題と廢娼運動』」『日本史研究』617号、査読無、2018年、79-89
- ④横山百合子「近代日本における売春観の起点—芸娼妓解放令制定過程とイギリスフェミニズム運動の視点から」ダニエル・V・ボツマン、塚田孝、吉田伸之編『「明治—五〇年」で考える 近代移行期の社会と空間』、査読無、2018年、102-116
- ⑤松田法子「大分県別府温泉における芸娼妓の社会と空間」『日本建築学会計画系論文集』83号、査読有、2018年、979-986
- ⑥塚田孝、「近世大坂の都市社会構造—孝子・忠勤褒賞から見る民衆世界—」、『都市史研究』4号、査読有、2017年、52-66
- ⑦小野沢あかね、「性売買・日本軍「慰安婦」問題と国家・社会」、歴史学研究会編『第4次 現代歴史学の成果と課題 2 世界史像の再構成』、査読無、2017年、147-164
- ⑧横山百合子、「身分論の新展開」、歴史学研究会編『第4次現代歴史学の成果と課題 第2巻 世界史像の再構成』、査読無、2017年、114-129
- ⑨金富子、「韓国の「平和の少女像」と脱真実の政治学：日本の植民地主義/男性中心的なナショナリズムとジェンダーの検討」、『韓国女性学』、査読有、2017年、279-322
- ⑩吉元加奈美、「大坂の傾城町：新町」、『市大日本史』、査読有、2017年、119-134
- ⑪佐賀朝・飯島美和、「芸娼妓解放令後における石川県の遊所統制」、『北陸都市史学会誌』、査読有、2017年、1-22
- ⑫人見佐知子、「山梨県の芸娼妓解放令と遊女娼妓」、『岐阜大学地域科学部研究報告』、査読無、2017、94-110
- ⑬横山百合子、「遊女大安売—幕末の新吉原遊廓」、『歴博』、査読無、2016年、15-18
- ⑭塚田孝、「都市社会史の方法—日本近世都市史研究の展開と大坂—」、『東アジアの都市構造と集団性』、査読有、2016年、4-24
- ⑮横山百合子、「梅本記：嘉永二年新吉原梅本屋佐吉抱遊女付け火一件史料の紹介」、『国立歴史民俗博物館研究報告』200号、査読有、2016年、145-168
- ⑯金富子、「混迷する「慰安婦」問題を考える—朝鮮人「慰安婦」と植民地支配』、『静岡県近代史研究』40号、査読無、2016年、1-17
- ⑰佐賀朝、「近代遊廓社会史研究の課題と展望—『シリーズ遊廓社会 2』を素材に考える—」、『部落問題研究』211号、査読有、2015、71-88、
- ⑱松井洋子、「近世遊廓社会史の方法をめぐって」、『部落問題研究』211号、査読有、2015年、4-13
- ⑲小野沢あかね、「性奴隷制をめぐって—歴史的視点から」、『季刊 戦争責任研究』84号、査読無、2015年、2-11
- ⑳吉元加奈美、「近世大坂における茶屋の考察—堀江地域を素材に—」、『部落問題研究』211号、査読有、2015年、14-70

〔学会発表〕 (計 63 件)

- ①佐賀朝“The Modernization of Prostitution in Yokohama from the Late Edo period to Early Meiji”, Yale-OCU Joint Seminar Series “Marginal Social Groups and Historical Documents in Asia—Japan and the Ottoman Empire”, 2019年、イェール大学
- ②金富子「植民地遊廓と日本の軍隊—「京城」(ソウル)を中心として—」、シンポジウム「メディアと観光スポットにおける植民地時代、戦争・平和のイメージ」、2019年
- ③佐賀朝“The World of the Pleasure Quarters in the Transitional Period from Early Modern to Modern Japan :Research on the Yokohama Pleasure Quarters”, シンガポール国立大学・国際シンポジウム「Revisiting Japan's Restoration Interregional, Interdisciplinary, and Alternative Perspectives」、2018年
- ④塚田孝「孝子・忠勤褒賞から考える若干の論点の敷衍」、都市史学会主催・書評ワークショップ「塚田孝著『大坂 民衆の近世史—老いと病・生業・下層社会』を読む」、2018年
- ⑤小野沢あかね「性売買研究の立場から」、「戦争と女性への暴力」リサーチ・アクションセンター総会シンポジウム「「慰安婦」被害はどう聞き取られてきたか—証言からオーラル・ヒストリーへ」、2018年
- ⑥横山百合子、「新吉原遊廓における遊女の自己形成とリテラシー」、国立歴史民俗博物館主催国際研究集会「買売春と社会—日本中世から近代まで— Prostitution and Society in Japan: from Pre-modern to Modern Era」、2018年
- ⑦人見佐知子、「明治初年の神戸における外国人妾—『つる一件』から」、頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム「周縁的社会集団と近代」第4回国内個別セミナー、2018年
- ⑧佐賀朝、「居留地と遊廓社会—横浜・大阪・東京を素材に—」、都市史学会大会シンポジウム「植民地と都市そして地域」、2017年
- ⑨吉田伸之、The social=spatial structure of the chonin districts of Edo and the topology of plebeian lifeworlds (江戸町人地の社会=空間構造と民衆世界の位相)、Plebeian Society and the Growth of Cities in 'Early Modern Japan (都市の巨大化と民衆世界)、2017年

- ⑩人見佐知子、「The Yoshiwara Brothel Keepers' Association (Yujoya Nakama) in the Early Meiji Period: From the perspective of its transition from the Early Modern Period」、Association for Asian Studies Annual Conference 2017、2017年
- ⑪杉森哲也、「近世京都・妙法院領の新地開発とその地域構造」、第55回部落問題研究者全国集会、2017年
- ⑫吉元加奈美、「近世大坂における堀江新地の社会構造分析」、部落問題研究者全国集会分科会I歴史1、2017年
- ⑬佐賀朝、「近代公娼制と軍「慰安所」のあいだー性奴隷制概念と歴史の実態から」、大阪歴史科学協議会、2016年
- ⑭小野沢あかね、「近代公娼制度と日本軍「慰安婦」問題ー性奴隷制と日本人「慰安婦」」、大阪歴史科学協議会、2016年
- ⑮横山百合子、「The Dismantling the Status System and Changes to Gender in the Meiji restoration」(近世身分制の解体とジェンダーの変容)、New Perspective on the Meiji Restoration: A Preliminary Workshop to Prepare for the 3rd Sesquicentennial Conference、2016年
- ⑯松井洋子、「コメント:近世長崎の事例から」、2016年度歴史学研究会大会全体会:人の移動と性をめぐる権力、2016年
- ⑰金富子、「日本社会の朝鮮人「慰安婦」認識」、日本軍「慰安婦」研究会、2016年
- ⑱塚田孝、「近世大坂の開発と社会=空間構造ー道頓堀周辺を対象にー」、近世大坂研究会小円座、2015年
- ⑲人見佐知子、「近代公娼制度と遊廓社会ー人見佐知子『近代公娼制度の社会史的研究』をめぐってーリブライ」、大阪歴史科学協議会10月例会、2015年
- ⑳横山百合子、「遊廓の歴史ー近世から近代へー」、VAWWRAC『戦後70年・植民地解放70年を考える日本人「慰安婦」ー愛国心と人身売買とー』出版記念セミナー、2015年
- ㉑金富子、「植民地末期=戦時体制期朝鮮における「帝国の教化」の包摂と排除」、民衆史研究会2015年大会シンポジウム、2015年
- ㉒吉元加奈美、「近世大坂の茶屋と御池通五丁目・同六丁目の社会=空間構造」、第3回上海大学・大阪市立大学国際共同シンポジウム、2015年

【図書】(計18件)

- ①金富子、吉川弘文館、『植民地遊廓-日本の軍隊と朝鮮半島』、256頁、2019年
- ②ダニエル・V・ボツマン、塚田孝、吉田伸之編著、山川出版社、『「明治一五〇年」で考えるー近代移行期の社会と空間』、2018年
- ③横山百合子、岩波書店、『江戸東京の明治維新』、224頁、2018年
- ④小野沢あかね・金富子・西野留美子、Routledge、Denying the Comfort Women: The Japanese State's Assault on Historical Truth、288頁、2018年
- ⑤塚田孝、筑摩書房、『大坂 民衆の近世史ー老いと病・生業・下層社会』、286頁、2017年
- ⑥吉田伸之・池享・櫻井良樹・陣内秀信・西木浩一(共編)、吉川弘文館、『みるよむあるく 東京の歴史』2巻(通史編2)、160頁、2017年
- ⑦浅野秀剛、講談社、『浮世絵細見』、320頁、2017年
- ⑧吉田ゆり子、山川出版社、『近世の家と女性』、339頁、2016年
- ⑨吉田伸之、岩波新書、『都市ー江戸に生きる』、252頁、2015年
- ⑩金富子・板垣竜太編集、御茶の水書房、『朝鮮人「慰安婦」と植民地支配責任』、182頁、2015年

【その他】

ホームページ等 「遊廓・遊所研究データベース」<http://yukakustudy.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：塚田 孝
ローマ字氏名：TSUKADA Takashi
所属研究機関名：大阪市立大学
部局名：大学院文学研究科
職名：教授
研究者番号(8桁)：60126125

研究分担者氏名：吉田 伸之
ローマ字氏名：YOSHIDA Nobuyuki
所属研究機関名：東京大学
部局名：人文社会系研究科
職名：名誉教授
研究者番号(8桁)：40092374

研究分担者氏名：人見 佐知子
ローマ字氏名：HITOMI Sachiko
所属研究機関名：近畿大学
部局名：文芸学部
職名：准教授
研究者番号：00457029

研究分担者氏名：神田 由築
ローマ字氏名：KANDA Yutsuki
所属研究機関名：お茶の水女子大学

部局名：文教育学部
職名：准教授
研究者番号：60320925

研究分担者氏名：小野沢 あかね
ローマ字氏名：ONOZAWA Akane
所属研究機関名：立教大学
部局名：文学部
職名：教授
研究者番号：00276700

研究分担者氏名：松井 洋子
ローマ字氏名：MATSUI Yoko
所属研究機関名：東京大学
部局名：史料編さん所
職名：教授
研究者番号：00181686

研究分担者氏名：吉田 ゆり子
ローマ字氏名：YOSHIDA Yuriko
所属研究機関名：東京外国語大学
部局名：総合国際学研究院
職名：教授
研究者番号：50196888

研究分担者氏名：金 富子
ローマ字氏名：KIM Puja
所属研究機関名：東京外国語大学
部局名：総合国際学研究院
職名：教授
研究者番号：40558102

研究分担者氏名：横山 百合子
ローマ字氏名：YOKOYAMA Yuriko
所属研究機関名：国立歴史民俗博物館
部局名：研究部歴史研究系
職名：教授
研究者番号：20458657

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：浅野 秀剛
ローマ字氏名：ASANO Shuugou

研究協力者氏名：米谷 博
ローマ字氏名：KOMETANI Hiroshi

研究協力者氏名：杉森 哲也
ローマ字氏名：SUGIMORI Tetsuya

研究協力者氏名：初田 香成
ローマ字氏名：HATSUDA Kosei

研究協力者氏名：松田 法子
ローマ字氏名：MITSUDA Noriko

研究協力者氏名：本康 宏史
ローマ字氏名：MOTOYASU Hiroshi

研究協力者氏名：齊藤 俊江
ローマ字氏名：SAITO Toshie

研究協力者氏名：松田 有紀子
ローマ字氏名：MATSUDA Yukiko

研究協力者氏名：屋久 健二
ローマ字氏名：YAHISA Kenji

研究協力者氏名：吉元 加奈美
ローマ字氏名：YOSHIMOTO Kanami

研究協力者氏名：武林 弘恵
ローマ字氏名：TAKEBAYASHI Hiroe

研究協力者氏名：ダニエル・ボツマン
ローマ字氏名：Daniel BOTSMAN

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。